

## 本震時の巨大滑り域と余効滑り域

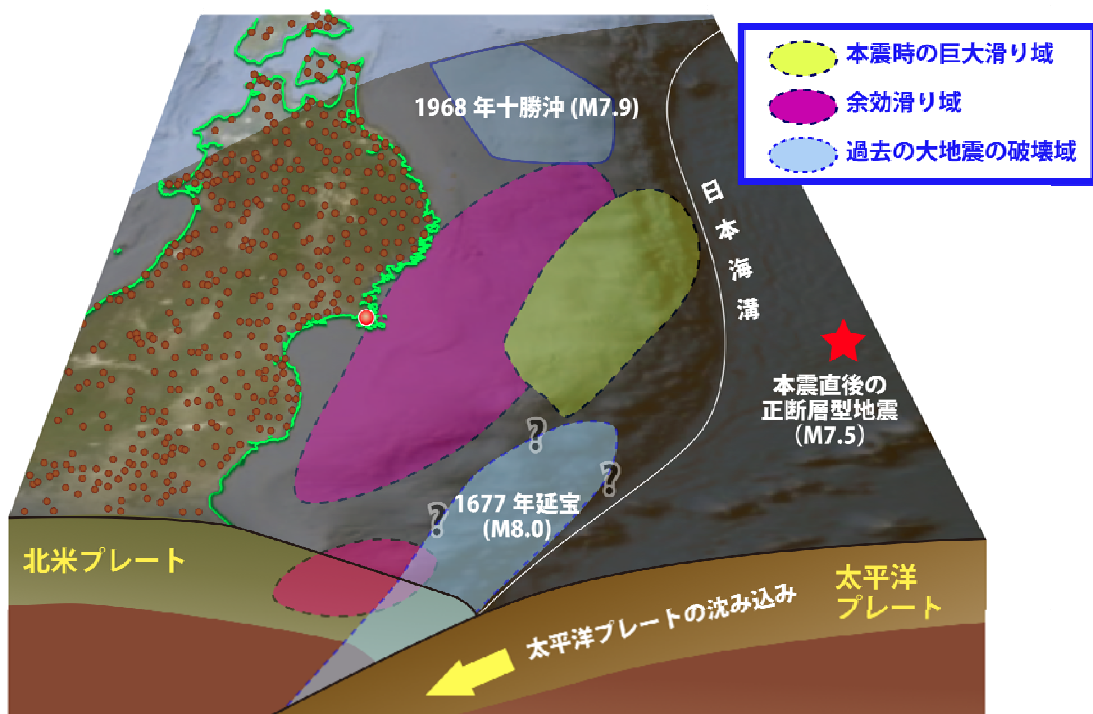
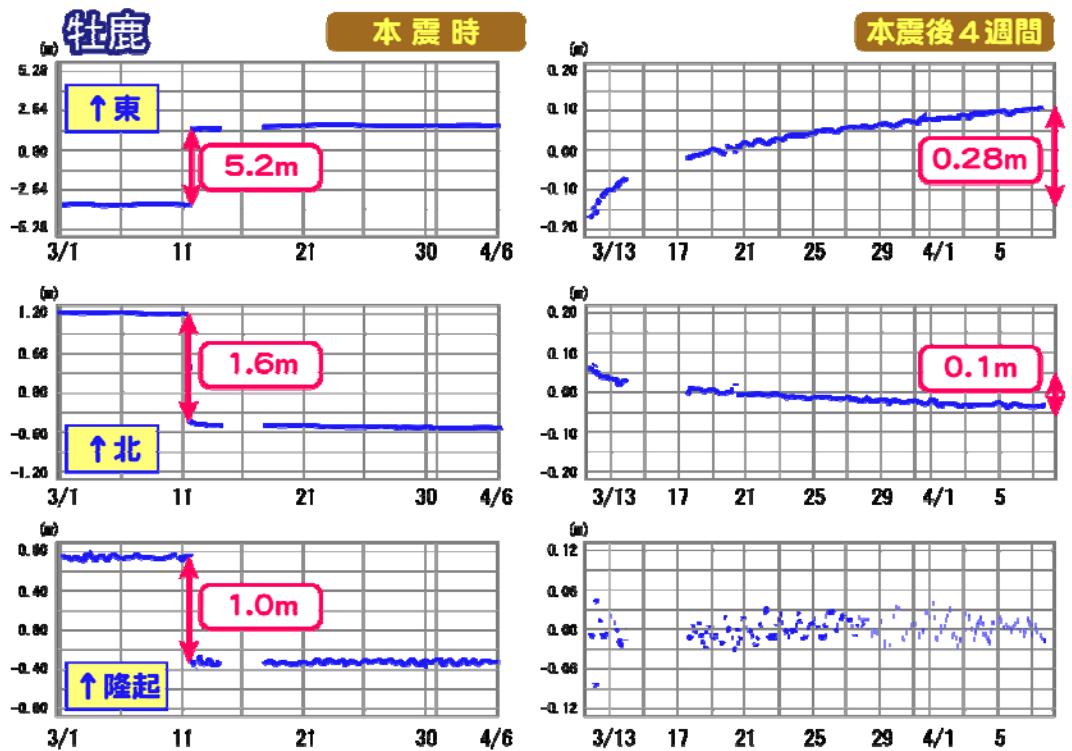


図6. 地震時破壊領域とその後の余効変動領域

上図：東北地方太平洋沖地震の発生により、東北地方を中心とした地域に大きな地殻変動が生じた。図は、本震発生後も数十 cm 以上の余効変動が続く牡鹿観測点における地殻変動を示す。下図：GPS データを用いて推定された日本列島下のプレート境界での滑り運動。余効滑り域（ピンク）は本震時の巨大滑り域（黄色）と一部で重なるものの相補的であった。この余効滑り域は、1968年十勝沖地震（M7.9）が北限に、1677年延宝地震（M8.0）が南限になっているように見える。陸上の丸印は GEONET 観測点を、星印は、本震直後に日本海溝の東側で発生した正断層型の地震（M7.5）を示す。